

49号内容一覧

はじめに（滝沢）	1
役員会から	2
神栖の広場	3
県北の広場	4
県南の広場	6
会員の声（池田キクエさん）	8
賛助会員の声（小栗美千代さん）	10
がんばってる人⑫（村山明夫さん）	11
関係機関訪問（那珂市社会福祉協議会）	12
みんなの作品展（県南集会の作品）	13
お知らせ・編集後記	14

今回の表紙の写真は、県南集会において参加者の皆さんが書かれたお習字の作品をシャボン玉の中に入れました。13ページには、全作品を縮小して載せました。どれも力作です。



県南集会「額作り」

はじめに

会長 滝沢 静江

2020年は、皆さまにとってどんな一年でしたでしょうか？

振り返ると、今年はいろいろなことがありました。目の前のこと、守りたいもののこと。コロナ禍の生活様式から国や自治体の対策、経済、そして顔も知らない全国の人々のことまでも。毎日ニュース番組を見ながら一喜一憂し、先の見えない状況にいつも以上に気を張って・・・本当におつかれさまでした。

何気なく見ていた SNS で、こんな記事を見つけました。今まで普通に使っていた漢字「氣」という字が第二次世界大戦前は「氣」を使用していたということ。見た目では画数が4つ減ったというだけですが、漢字の持つ意味合いが大きく変わります。

ではその違いとは？

氣(氣)を使う言葉としては、元氣(氣)病氣(氣)氣(氣)持ちなどがあります。これらの表現にあるように「氣(氣)」はエネルギーを意味しています。合気道は良い例で、エネルギーの使い方や合わせ方の道を意味しています。「氣」と「気」の違いは米とメですね。米は末広がりや八方に広がることを意味していて、エネルギーのあるべき姿は全身から放出されていること。日本人とお米は切っても切り離せない食べ物です。そう考えると本来のエネルギーとしてあるべき字が「氣」ということですね。

「気」の場合ですと、エネルギーをメ(しめる)となり、エネルギーが抑え込まれているような感覚になります。私たちの感覚というのは理解を超えて身に入ってくるので、「気」という漢字を使うことでエネルギーは自然と委縮してしまうのかもしれない。日本には「言霊」という、言葉には魂や気持ち宿っているという考え方があります。「氣」という漢字一文字にも言霊が宿っているかのようです。

ずっと部屋に閉じこもっていると空気が悪くなる感覚ってありますよね。これが「気」。これからますます寒さは増してきますが、たまには窓やドアをあけ放って外からの空気を入れませんか？すると空気の流れが生まれ、入れ替わってスッキリします。まさにこの状態が「氣」というわけですね。たかが「氣」ですが、されど「氣」です。

日本の文化、考え方って素晴らしいですね。

今までも、これからも、仕事や家族、大事なものはたくさんありますが、自分のことも大事にできますように・・・。変わりゆく状況のなかで、少しでも軽やかに過ごせますように・・・。皆さまの健康を心よりお祈り申し上げます。

2020年 お世話になった方々に、またコロナ禍に立ち向かって下さった皆様に、心よりの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

そして、2021年も高次脳機能障害友の会・いばらきをどうぞよろしく願いいたします。



役員会から



令和2年度 高次脳機能障害友の会・いばらき 事業予定

月	項目	会 員	役 員 会	そ の 他
12月		11日 家族会交流室 (中止) 23日 神栖集会		15日 会報誌発行
1月		8日 家族会交流室 15日 県北家族の集い 27日 神栖集会 未定 当事者会	19日 役員会	12日～18日 高次脳機能障害者支援基礎講座 (オンラインによる) 未定 要望書提出
2月		12日 家族会交流室 24日 神栖集会 未定 県北集会 県南集会		
3月		12日 家族会交流室 12日 県北家族の集い 24日 神栖集会 未定 当事者会	16日 役員会	15日 会報誌発行

役員会報告

- 令和2年9月15日 議事(1)新事業の当事者会について
(2)要望書提出に関して・その他
- 令和2年10月20日 議事(1)家族会交流室について
(2)要望書の内容について・その他
- 令和2年11月17日 議事(1)各地区集会について
(2)当事者会について
(3)作業療法士会土浦医療圏の事業・その他

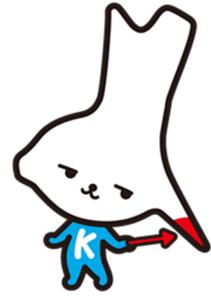


家族会交流室からの報告

- 令和2年9月11日 相談者なし 会員8名
支援センター 山中支援 CN
- 令和2年10月9日 相談者なし 会員10名
支援センター 山中支援 CN
さいたま市高次脳機能障害者支援センターより2名
交通事故被害者家族ネットワーク 岡村さま
- 令和2年11月13日 相談者5組 会員5名
支援センター 小原センター長・高松支援 CN
- CNは、コーディネーター (Coordinator) の略称です。

神栖の広場

8月から「障がい者就労・生活支援センター まつぼっくり」の職員さんの参加があり、にぎやかになりました。「今迄は、知的・身体障害の方たちとの関わりが主だったので、高次脳機能障害や発達障害の理解を深め、当事者への接し方を学びたい」とのことで参加されています。体験してきたことを振り返りながら、参考になる会話をしますが、今困っていることも多いので支援センターのアドバイスを受けています。今後も当事者家族にとって良い解決策が見つかる様続けてゆければと思うとともに、「家族会」の活動が根付いてきていることも確信しています。



先日、免許更新を済ませました。車は生活に欠かせないですし、息子の行動範囲にも影響するので、セーフティドライバー続行中です。息子は記憶障害もあり住まいの中では自由に行動できても、慣れない所での一人はかなり不安の様です。そういえば、数年前の勝田マラソンの時、やっと合流できた時には片付けが始まっていたし、袋田の滝マラソンの時は、常陸太田に向かうトンネルの方まで行ってしまい、心細い思いをしたりと、エピソードはきりがありません。それが今では本人も弱点に気付き、行動する前に周りを確認し、戻れるようになってきています。パニックに陥り、走り回っていたのが嘘の様です。

自転車持参でかすみがうらサイクリングを楽しんだ時のこと、満足げな顔で戻ってきて、次はスマホで場所をセットしようとして新しいアイテムに気付いた様子。事故から24年以上経過し、ゆっくりだが本人なりの対処法を見つけている姿を見て、気づき・見守る時間の大切さを感じずにはいられません。寄り添っていたつもりが、今は支えられている部分が多いのです。

「ファイト」大好きな言葉です。息子の入院中途方に暮れていた時、隣の高校のテニス部の掛け声「ファイト!!ファイト!!」励まされました。コロナ禍の中、不自由も多いけれど「ファイト」で乗り切りましょう。(御所脇)

《神栖集会の報告》

8月25日(水)	支援センター	高松 CN	土井 CN
	まつぼっくり	3名	会員 4名
9月23日(水)	支援センター	山中 CN	岡野 CN
	まつぼっくり	2名	会員 3名
10月28日(水)	支援センター	岡野 CN	
	まつぼっくり	2名	会員 3名

CNは、コーディネーター (Coordinator) の略称です。

県北の広場

コロナ禍ですが、9月に第2回県北集会 家族の集い、10月に第1回県北集会が行われました。

令和2年度 第1回県北集会 令和2年10月11日(日)

場所：水戸市社会福祉協議会

内容：座・リフレッシュ体操、頭の体操～なぞなぞタイム～

参加者：9名(当事者1名、家族3名、支援者4名、見学者1名)

今年度初めての集会開催となりました。

マスク着用、手の消毒、ソーシャルディスタンス・・・コロナ感染対策をしての開催となりましたが、皆さん集えて「よかったね！」と笑顔😊

いつもの集会より1時間短縮しての開催でしたが、体も頭も動かして楽しい時間でした。



上肢～下肢と動かしました。
身体があたたかくなりました。



あれ?! 簡単な体操なのに・・・
コロナ太りか??
でも、気持ちがいいですね!

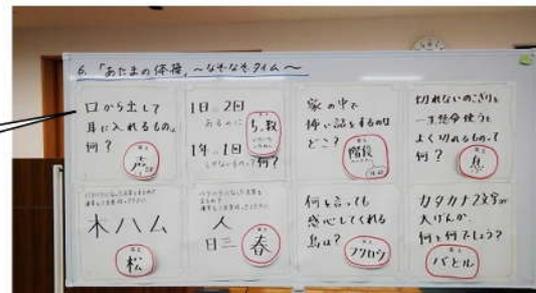
『頭の体操』～なぞなぞタイム～



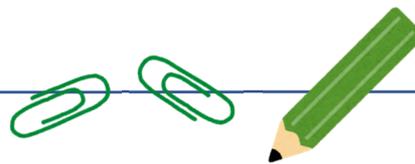
「??」「ハイ!」「あ～そうか」
簡単かと思ったら、なかなか難しい!!
大いに頭を動かしました。



こんななぞなぞ
が出されました。



『参加者の感想から』



- ・「座りフレッシュ体操」微妙に使わない筋肉に響きました。
- ・「なぞトレ」楽しかった・・・けど自分の頭のかたさにショック！！
- ・レクリエーションはもちろん、久しぶりに参加者の皆様とお話してきたことが楽しかったです。
- ・みなさんの顔を見てホッとしました（安心しました）。
- ・やっと第1回集会が開けてよかったです。次回もコロナ禍の中かもしれませんが、開かれる事を願います。
- ・支援者として初めて参加させていただいた。

入院中の医療者との関わりのなかで、家族として驚くような言葉をかけられたなど、いろいろな体験を聞くことができました。医療現場でも適切な対応が難しい現状であることが理解できた。入院中の対応（関わり）も大切だが、自宅で介護する家族の心労も大きいということも強く感じた。その中で周囲の障害の理解不足や誤解も生じてくるため、当事者と介護者（家族）は家族会とつながることで精神的な支えになっていると感じた。情報交換や意見交換により問題解決につながっていると思う。

これからもっと多くの人に家族会が広まり、高次脳機能障害の理解が深まれば良いと思う。

家族の集い報告

去る11月20日（金）第3回家族の集いを開催することができました。

なかなか収束しないコロナウイルス。第三波となり、私達を脅かしています。

こんな中、支援センターからの参加もいただき、8名ほどの会となりました。（家族5名、支援者3名）

久しぶりに参加された方とは再会を喜び合いました。また、前回見学された方が入会され、参加。仲間が増えて嬉しいことです。

今回は、12月の県北集会についても話し合いました。「コロナは心配だけど、12月に収まっていたら、集会が無いのも残念」ということで、開催の準備はすすめることとしました。



ところがその後、県内の感染者数が増加して、残念ながら中止しました。

ここは我慢して、コロナウイルス感染が収束した時には、また楽しく、元気に集会を開きたいと思います。

感染症対策に万全を期して過しましょう。

県南の広場

前回もお話いたしました、今年度は、4月5月と集会を計画しました。しかし新型コロナウイルスの感染拡大のため、開催することができず、やっと9月、11月と2回続けて開催することができました。

以前、みなさんから、何をやりたいかアンケートをとったところ、カラオケ、ボーリング、調理、バーベキューなど、やりたいことがたくさんでできました。しかし現在の感染状況ではやれないものばかりです。これらのことは、もう少し感染が収束してから・・・と言うことで、今回はひとりひとりの作業を中心に行いました。今回は、2回分の報告をしたいと思います。

まず 9月6日(日) センター「ながみね」で **お習字** をやりました。

参加者は当事者7名、家族が8名、そして支援者としてSTの加藤裕子先生が参加してくださいました。

最初の計画では、墨で遊んで作品作り・・・と言うことでしたが、始めてみるとみなさん「筆なんて持ったことがないよ」「学校以来なので手が震える」などの声とはうらはら、芸術家ぞろいでびっくりです。

テーブルいっぱいの大きな紙に思いきり力強い字を書く人、墨の色を工夫する人、次々に湧き出るようにたくさんの字を書く人。中には本を片手に、古代の文字に挑戦する人もいました。「雨」という字を雨粒のようにアレンジして作品にしたのもすてきでした。

たくさんの作品は機会を作って、ぜひ皆さんにも見ていただきたいくらいです。

本当は静かに作品を作る予定でしたが、楽しくて少しにぎやかになりすぎてしまい、少し反省のひとつときでした。



次に、11月8日(日) 同じ「ながみね」で、**フォトフレームの飾りつけ** をやりました。

参加者は、当事者5名、家族6名。そして今回も加藤先生が支援してくださいました。

9月の開催時、人数も多く、にぎやかになってしまったので、今回は、広いホールを使用して開催しました。

はがきや写真を飾る写真立てに、たくさんの色のついたパールや貝殻、色とりどりのタイルなどをボンドで貼り付け飾っていきます。今回はクリスマスも近いことから、クリスマスらしい華やかなものも用意しました。

それぞれのセンスが光るフレームが次々に出来上がります。カラフルなタイルを敷き詰めたもの、クリスマスのプレゼントや果物を貼り付けたもの、青い海のイメージに作られたもの。本当に素敵な作品でいっぱいでした。

お父様と参加されたNさんが「スポーツが大好きな弟にプレゼントするの」とすてきな笑顔で見せて下さったのは、サッカーや野球のボールのパーツをたくさん貼り付けたかわいいフレームでした。以前アレンジメントをした折に、先生が「誰かのために・・・とって作るのは大切ですね」と仰っていたことを思い出しました。Nさん、とてもやさしいお姉さんの笑顔でした。皆さんの作品も、きっと今頃はそれぞれのお家で写真が飾られていることでしょうね。



この秋の2回の集會に参加された方たちから感想をいただきました。

- ・ コロナ禍の中で鬱々とした毎日です、久しぶりに楽しい時間を過ごしました。
- ・ 普段筆など持たないから不安でしたが、書いているうちに楽しくなった。
- ・ 子供がいるのも忘れて、夢中になってしまいました。
- ・ 字っておもしろいと思った。また書きたいです。
- ・ はじめは不安だったけれど、あっという間にたくさん作品ができました。
- ・ 久しぶりに無心になって作業しました。楽しかった。

本当にみなさんありがとうございました。

毎回使用させていただいている「ながみね」でも、一部屋の利用は通常の三分の一の人数しか許可されません。もちろん換気や検温、消毒と、コロナの感染の拡大を防ぎつつの利用です。

今回は、最後に作品を持って記念写真を撮りましたが、その時も、ぜひみんなの笑顔届けたいと

の思いで、撮影の瞬間だけマスクをはずしての記念撮影になりました。これからもいろいろと不自由なこともあるかとは思いますが、自粛続きのストレスがほんの少しでも和らぎますように、時々様子を見ながら集會活動をしていきたいと思っています。正しくおそれ、最大限の対策をとりながら、楽しむことを目指していきましょう。



高次脳障害者として生きる息子

池田キクエ（新潟県）

11月は我が家の三男坊が交通事故にあい、奇跡的に生還を得た月です。11月13日。先日息子から電話があったので、「事故以来何年経ったかね」と話を向けると「19年になるね」といいます。「そんなに経つ？今あなた何才？」と訊ねると「45才」といいます。26才の時でしたからちょうど19年になります。改めて時間が経ったことを感じました。



事故にあった時は、何としても命をつないで欲しいと思うものももしかして寝たままの植物人間かもしれないとか介護生活になるかも等と心配でした。医者に宣告されていましてから。2か月程で首を固定した状態で車椅子に乗り院内を移動できるようになり、3ヶ月で歩行器を使って自力歩行が出来、実家近くの病院へ転院が許可される迄になりました。

転院先では専ら作業 理学 言語等のリハビリを繰り返しやりました。手作業や歩行は少しずつ前進しましたが、言語療法の所が困難を極めていました。6か月経つ4月頃には『何よりのリハビリは病院から出て実生活に戻ること』と指導され、退院して9月から大学生生活に戻ることになりました。本人の頭の中では不安が一杯だったと思います。雲の中をさまようような状態だと思います。環境が変わると方向感覚、記憶等全く定着しないのです。リハビリの先生が『本人が事故前に身につけていた生活の能力は身に着いているものです』と云ってくださったのを信じて、高卒以降7年間の自炊生活の経験を思い出してくれると思い仙台へ送り出しました。寮生の皆さんにはずいぶん心配をかけたことと思います。4年かけて修士論文を仕上げ、繰り返し発表練習をし、合格を得た時はみんなの努力が実ったと安堵しました。

学生生活は時間をかけて何とか終結しましたが実社会はそうはゆきません。2年後に改めて脳外科医を訪ね、検査を受け障害者として認定を得る決意をしました。私達も脳全体の明瞭に傷を受けている映像や知的能力の検査結果を見せられて、息子の生活実態と合致することに理解ができ受け入れられました。医師より後遺症として



考えられる病気について話をされましたが、それは発現してきた段階で対応するしかないと思いました。

2 回転職の末、大学でご指導いただいた教授から、障害者枠での仕事を紹介され試験を受けて入社現在に至ります。

生活環境が変わることは前述した通り本人にとって大変化。部屋さがし、契約手続き、荷作り 移動 新しい生活への定着等。家人の助けが主です。ある時引っ越しを終えて家に戻った夜です。

買い物に出かけたけど戻れなくなったとの電話にあわてたことがありました。ケータイに自宅住所を記録してあるからそれを見せて誰かに教えてもらうように話したように思います。息子の引っ越しは寮以後 5 回になります。

19 年を経過した現在はかなり自主的に生活できています。年 2 回の病院外来の予約、手帳の更新等私が催促しなくても済ませています。障害者に係る仲間の方々との交流等自ら切り開いてもいます。いつの間にか東京方面迄出向いて酒の肴作りの会にも行ったりして。(今は無いようです)

末息子が 45 才なら親は 85 才と 79 才。そろそろ遠出ができなくなってきました。今年は特にコロナ禍で出向く訳にはいきません。ラインでメールや通話です。

月 2 回部屋の掃除をしてくださる方に依頼して頼っています。身の回りの片付けが難関です。子供の頃から身に付かない習慣です。

「高次脳機能障害友の会・いばらき」の方には、つくばに移り住んで以来ずっとお世話になっています。職場では得られない障害に理解を持ってくださる皆様方で、落ち着ける場所と思います。これからも良き相談者として宜しく願いいたします。



訪問支援の仕事を感じること

労災ケアサポーター 茨城担当 小栗美千代

労災被災者の在宅療養されている方の訪問をさせていただく仕事を震災後より続けています。頭部外傷後、自宅療養をされている方がとても多く、今までの自分の知識では対応できないと悩んでいた時に友の会のことを教えていただきました。それ以来とても頼りにしています。高次脳機能障害と主治医から話されている方が多くなりましたが、会の存在を知らずに不安に思っている方がたくさんいらっしゃいます。茨城にも友の会がありますとお話すると、安心されます。

訪問して驚くことは誰が当事者なのか分からないくらい皆さん回復されているように見えることです。日程のことで連絡すると電話の対応もスムーズですし、玄関まで来てくださって、ご本人は奥の部屋にいらっしゃるのかなと思ってしまうこともたびたびあります。そのくらい、見ただけでは後遺症でどんなに大変な思いをされているのかわかりません。そして、何か困ったことはありますかとお聞きすると、ほとんどの当事者の方は、ないです、とお答えになるのです。

病棟で勤務しているときは患者さんが退院するとき、「回復されて良かった、ご家族も少し負担が少なくなるかな、」と思っていました。でも、退院して自宅に帰れば、家族だけで、毎日、見守りが必要です。多くのご家族の方が仕事を続けることができず、常時、随時の見守り介護をしなくてはなりません。



転ばないように、怪我をしないように、迷子にならないように、それでも家の中だけでなく外に出て他の方と触れ合ってほしい、でもトラブルがないようにと、細やかなことまで気を配り、支えていらっしゃいます。

そんな皆様からよくお聞きすること、それは、高次脳機能障害に適した支援施設があれば本人も家族も安心して通えるのにとということです。既存の施設ではいつか通えなくなるという不安があります。家族だけで支えていらっしゃる方はご自身が倒れてはいけないと、頑張っておられます。ご自身の健康も大事にしてほしい、検診を受ける時間はあるのだろうか、ちょっと体調がおかしいと思った時に休める時間はあるのだろうか、心配してしまうことも度々あります。

そんな状態にありながらも、訪問先でご家族の方は、夏は「暑いのに大変だね」、冬は「雪が降らなくても路面は凍っているから」、帰り際には「車の運転気を付けてくださいね」と声をかけてくださって、そんなお気遣いに私は心が温かくなり今日も良かった、と後にするのです。本来ならば私がそんな立場にならなくてはいけないのに、私の方が皆さんに支えられていることを日々感じています。「優しいことは強いこと。大変なことを乗り越えてきた方は本当に強く優しい。

毎年伺う時にそんな皆様が変わらずに元気でいてほしいと、そして今より少しでも在宅での支援体制が整ってくればいいなと願っています。

頑張ってる人

おとうは、がんばってます

稲敷市古渡 村山 明夫さん

熊さんのような大きな体から、温かい雰囲気が出る村山さんは、ユーモアを交えて色々なお話をしてくださいました。村山さんは、陸上自衛隊でたくさんの部下をもつ中隊長をされていました。立川市、古河市、ひたちなか市、鯖江市など様々な地で任務に就かれました。鯖江市で勤務していた頃、世の中に禁煙の機運が高まりました。村山さんも職場で「禁煙デイ」を設け、上司として率先して模範を示し、ご自分でも禁煙を達成されたとのことでした。(とても苦しかったそうですが)

自衛隊は心身ともに厳しい職場のため色々なストレスが重なり、脳梗塞を発症され、高次脳機能障害が残ってしまいました。

平日は「平山ラック稲敷」という事業所に通所しています。清潔感のある室内には、十数名の通所者の方々が静かに作業を進めておられました。仕事の内容は、ろうそくの箱詰めや金属部品の組み立てなどだそうです。村山さんはマヒが残っている左手で支え、右手で作業をしているとのことでした。

土曜日には、リハビリのために「あゆみ」というデイサービスに通っています。(日曜日はコロナの感染拡大の為、休みになってしまいました)

休みの日は、テレビを見たり散歩をしたりしてのんびり過ごします。相撲を見るのが楽しみで、琴奨菊と貴乃花が好きな力士だそうです。

県リハ時代の厳しいリハビリ(理学療法や職業訓練やパソコンなど)のおかげで自分はこれだけ回復したとおっしゃっていました。平山ラックで働いた報酬は、娘さんたちのために、奥様に貯金して頂いているとのことでした。

また、「自分は子供のころ貧しかったので、習い事が出来なかったけれど、娘たちにはやりたいことをやらせてあげたい」と、優しい父親の顔で村山さんは話してくださいました。



関係機関訪問

那珂市社会福祉協議会

住所 那珂市瓜連321番地
那珂市役所瓜連支所分庁舎内
電話 029-229-0309



※「障がい・介護支援グループ」グループ長の中村幸子さんと及川しずさんにお話を伺いました。

◇障がい・介護支援グループの主な事業内容としては

障がいのある方々やそのご家族が安心して暮らせる環境を整備するため、相談支援や事業者間の連絡・調整を行います。家族関係・人間関係の悩み、生活の工夫、困りごとなどの相談に応じます。県からの委託事業“日常生活自立支援事業”と合わせた権利擁護に関する支援を行う事も多いです。

◎あがっぺほっとサロン

こどもの不登校やひきこもりで悩むご家族が悩みを置いていける場所です。ずっと仕事をしていない、家からほとんど出ない、など同じ悩みや経験を持つ家族同士で気軽に話せる場所を目指しています。(聞くだけでもOKです)場所は、瓜連駅から徒歩1分のカフェで月1回開いています。



中村幸子さん(左)と及川しずさん

◎ふくし相談センター(菅谷分室)

今までは、「家族に関すること」「病気や障害のこと」「お金のこと」「仕事のこと」など、それぞれの相談窓口がありましたが、昨年度から「**ふくし相談センター**」という総合的な窓口ができました。どこに相談したらよいのかわからないと悩んでいる方は是非相談して頂きたいとのことです。専門の相談員と一緒に考えながら解決へのお手伝いをします。窓口は市総合保健福祉センター「ひだまり」内にあり、専門の相談員も常駐しています。

お二人ともとても話しやすく、和やかな取材ができました。高次脳機能障害に関する相談もこれから増えてくると思われるので、研修会等には積極的に参加したいとの嬉しいお言葉も頂きました。グループのメンバーは7人だそうですが、温かい雰囲気の中で優しく親身になって相談支援をされている感じが感じられました。

みんなの作品展

マスク
口

美味 夢
風 未来

安泰 無心
心 無心

立 孝
思 希

糸 夜
努力 未来

笑 朝顔
大成 舌

心 心
萌

望 夢
向

望 恵
早起 大笑

井 うな
出 平常

和 凜
朝日 器

美味

一期 決心
再会

アイス す
す

風 三月 雪花
雨 雨 雨
花 花 花

空 大地
滝

一期 一会

「小さい秋見つけた」
たれれさんが
たれれさんが
たれれさんが
見つけた
小さい秋
小さい秋
小さい秋
見つけた

きぼう

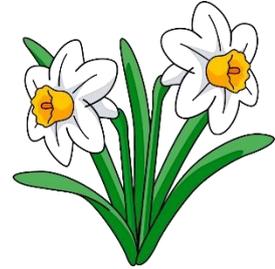
風花 並木
花 海

お知らせ

《家族会交流室について》

コロナの感染拡大により、8月の交流室から開催場所を変更しましたのでお知らせします。

開催日時 従来通り毎月第2金曜日(11:00~14:00)
開催場所 **土浦市ふれあいセンターながみね**
住所 土浦市中村西根 2078-1
電話 029-830-5600



※尚、コロナ感染拡大の状況により中止とする場合もあります。参加希望の方は、予め予約をお願いします。(予約の電話番号は 080-5901-9979 です。)

《編集後記》

11月の交流室には、4組の相談者の方が見えました。皆、辛い体験をされている方々で、それぞれの体験を打ち明け、そして聞き合い、密度の濃いあつという間の3時間でした。しかし、司会者が終了を告げても、帰ろうとする方はいません。まだまだ話し足りないようなのか、部屋の隅で話し続ける4組の方々の姿がありました。自分の気持ちを分かってくれる人がいた・・・そんな気持ちで離れ難かったのでしょう。(自分の数年前の姿です。) こんな場が、もっともっと必要です。



念2.11.18
元茨城県立医療大学の教授で現在金城大学の教壇に立っている澤俊二先生は、医療大学から継続したテーマの研究を続けておられる。それは医療大学の回復期病棟を退院した脳卒中の患者さんを追跡し続ける調査である。相手に拒否されない限り毎年自宅まで訪問して直接調べる。退院した人がどのようなようになっていくかを調べて、回復期病棟で打てる対策を探ろうという研究である。このように気の遠くなるような長期にわたる調査は世界中に見当たらない。
この夏京都で開かれた第57回日本

ドクター大田の
リハビリ忍法帖
第689回
超高齢化社会の自助共助

長期の調査研究生かす

今回の発表は発病後15年後のQOL(生活の質)に関するもので、それは身体機能、情緒適応、対人関係、生活目標を決まった尺度で測り、まとめたものであった。
一端を紹介すると、身体機能と生活目標に関する尺度は双方とも悪く、発病から10年ほど経過したころからその傾向が強くなるということであった。
いつまでもたっても身体機能の不全感に悩み、生活目標が立ちにくいのである。解決法として、退院後、地域で同病の仲間と交流できる場に出席し、同病者同士の相互学習や相互交流が必要であるとしている。
科学的根拠を基に、地域にそのような場をつくらせていくことがリハ専門職に問われるという提言を、現役で働いている人は重く受け止める必要がある。

茨城県立健康プラザ管理者・医学博士

大田仁史